

### III 発掘調査速報

#### 1. 下馬城遺跡

所在地 芽崎市大草町下条中割4-1番地

調査原因 個人住宅建設

調査期間 1999年10月29日

調査面積 9 m<sup>2</sup>

調査主体 芽崎市教育委員会

担当者 山下孝司



#### 1 遺跡立地

下馬城遺跡は、釜無川右岸に広がる段丘上の台地に所在した。遺跡の立地は標高360m前後あり比較的平坦で、北東から北西にかけて舌状に張り出しており、台地の南側斜面には町屋の集落が形成され、西側は割羽沢が北から南に流れ、周辺は畠となっている。下馬城遺跡はこの台地上に展開するものと思われ、今回の調査はその南西端において実施された。

#### 2 調査経緯

個人住宅建設にかかり、遺跡の有無確認調査を行ったところ、土器の出土が見られたので、地権者・住宅建設業者と芽崎市教育委員会で協議し、遺跡に影響ないように住宅は盛土を行い建設することとし、深く掘削する浄化槽部分の発掘調査を実施することとした。調査は平成11年（1999）10月29日に行った。

#### 3 遺構と遺物

調査はローム層まで重機によって掘り下げ、鋤簾を使い遺構の確認作業を行った。東側隅において暗褐色土の落ち込みが確認されたので、調査区域の西側半分を深堀して遺構の検出につとめたが、断面土層の観察結果では住居等の遺構とするには至らず、落ち込みが埋まった後にピットが掘られていることが判明した。このピット上層からは2の土器片が出土している。調査区域内で発見された遺構は、ピットが6個。西側のものは、浅い穴で断面はお碗形を呈している。南東側には、2.5m離れて確認面からの深さ55cmのピットが2個確認された。柱穴のたぐいとも思われるが、詳細は不明。

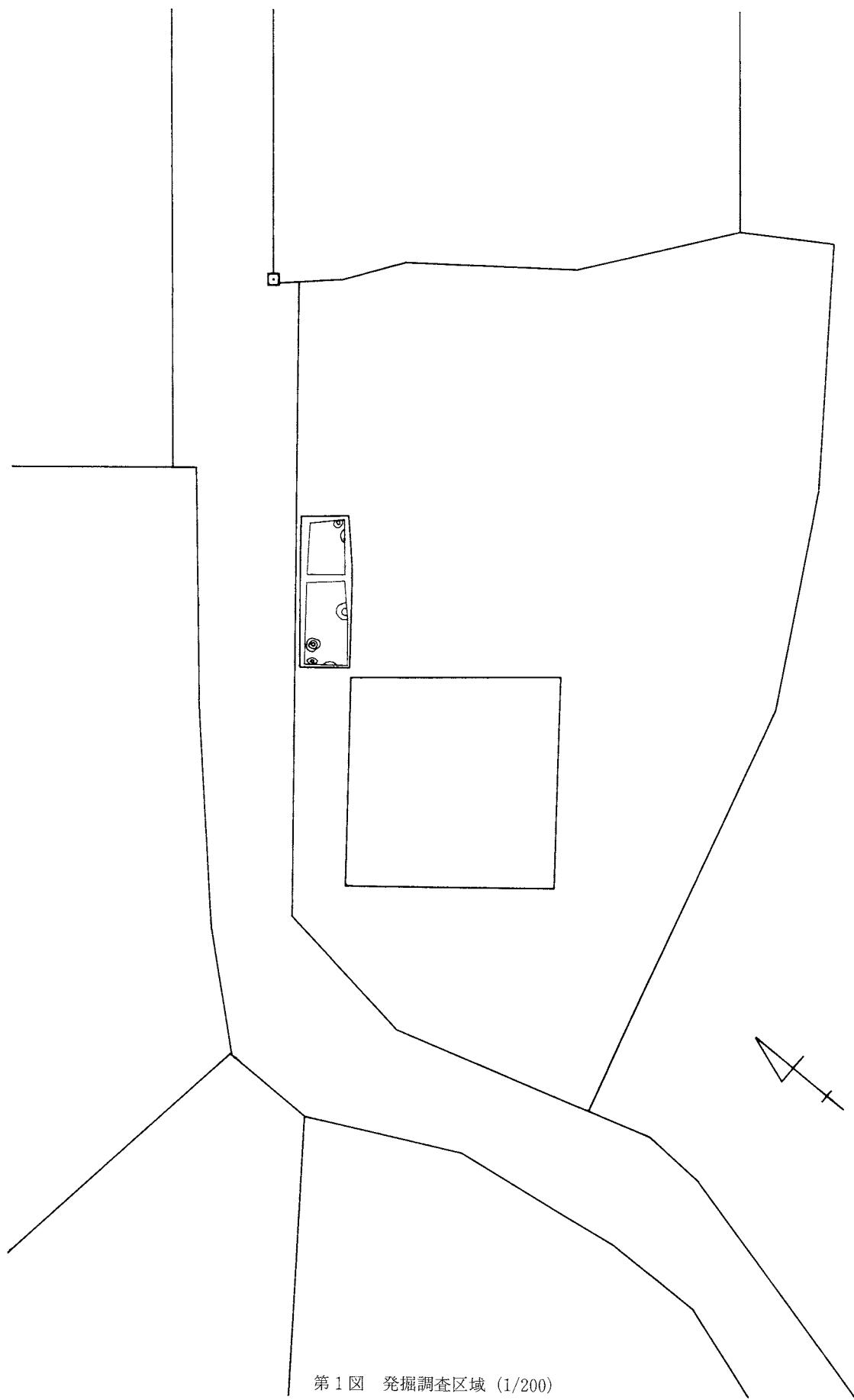
遺物は、遺構確認作業並びにピット内から出土している。いずれも縄文時代の土器（深鉢胴部）破片であり、数は少ない。特徴的なものを図化した。1と4は、単独で平・断面図をとったピットから出土。2は東隅のピットから出土。3は遺跡の有無確認作業において採集したものである。1は明褐色で、半截竹管のハラによる渦巻文と单節R L縄文が施されている。2は赤褐色で、半截竹管の外皮による地文に沈線文が施されている。3は黒褐色で櫛歯状工具による条線を地文とし、隆線による渦巻文が施されている。4は赤褐色で無節L縄文が施されている。

#### 4 まとめ

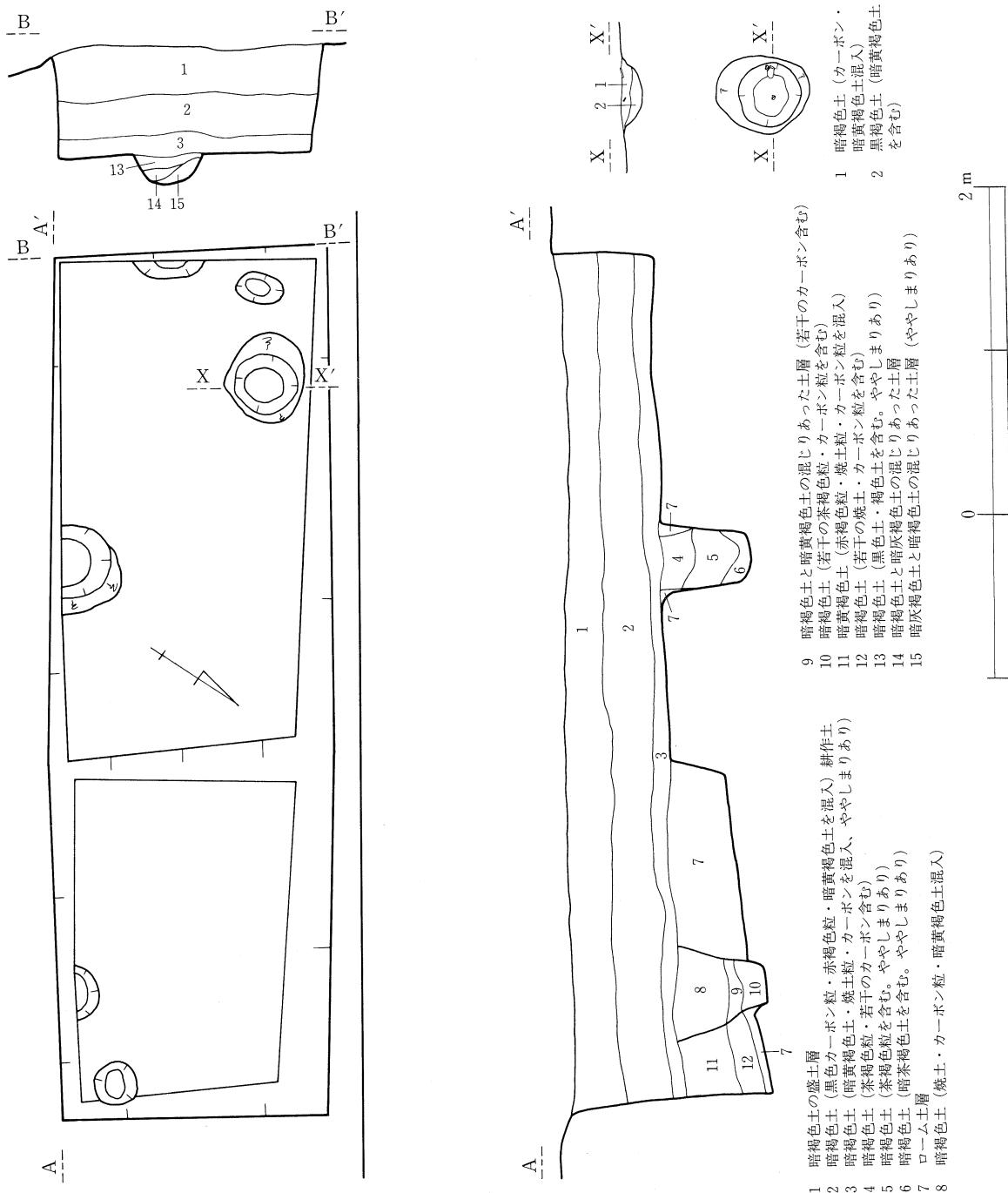
今回の調査は、狭小な範囲であったにもかかわらず、柱穴と思われるピットの検出や、土器片の出土など、当該地域の歴史を知るうえで重要な発見となり、本地域に縄文時代の遺跡が発見されたことは有意義であった。



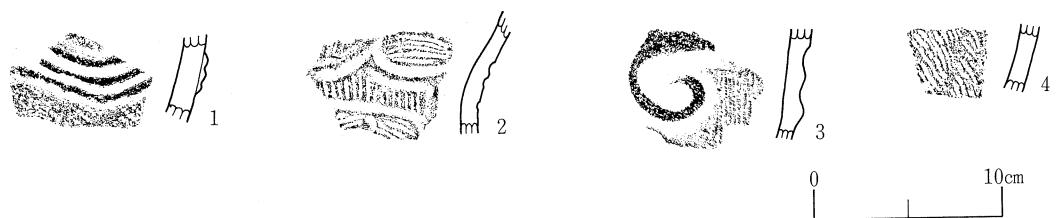
写真1 下馬城遺跡調査区域



第1図 発掘調査区域 (1/200)



第2図 遺構平・断面図 (1/40)



第3図 出土遺物 (1/4)